

生物多様性の観点からの緑化技術

カーテンウォール工法

(現場打自在コンクリート柵工)

吹付法砕工と法砕内の厚層基材吹付の組み合わせでは、吹付基材の流出、生育基盤厚不足、保水力不足や外来種による生態系かく乱が懸念されました。『カーテンウォール工法』は、表土を含む育成基盤の流出を防止しつつ、自生植物による植生を成立させます。



着工前



完了



完了4ヶ月後

生育基盤の流出防止
周辺在来種による植生
現地発生土を利用可能

カーテンウォール工法は、現場吹付法砕工と『カーテンウォール(現場打自在コンクリート柵)』の併用により、法面の安定確保と現場周辺の自生植物からなる植生を両立させる技術です。

※NETIS登録技術:KK-100118-A

Point
1

生育基盤の流出防止

カーテンウォールの設置により、生育基盤の厚みが確保(最深部約50cm)でき、根茎の伸長が容易となります。そのため、生育基盤表面が水平になる為、育成基盤の流出を防止でき、飛来種子の定着が容易です。



生育基盤の厚みを確保

Point
2

周辺在来種による植生

“周辺植生からの飛来種子”により植生の成立を図ります。外来植物や他地域で採取された種子を用いないため、周辺自然植生の生態系かく乱を防ぐことが可能です。



周辺植物の定着が容易

Point
3

現地発生土を利用可能

法面成型時に発生の表土をカーテンウォール背面に充填することで、埋土種子からの発芽・生育も期待できます。

施工手順

1 表層崩壊した斜面



2 法枠の設置



3 法枠部の拡大



法枠とカーテンウォール取付用の鉄筋は一体化させるため、同時期に設置します。

6 カーテンウォールへの注入



スペーススタイによる取付け



5 カーテンウォールの設置



4 法枠部の吹付



7 カーテンウォールにより枠内処理の完成



8 施工後2年目

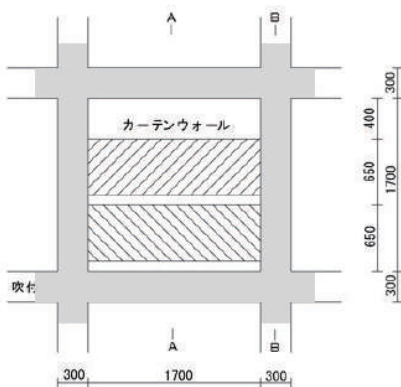


周辺植生からの飛来種子により草本が繁茂しています。

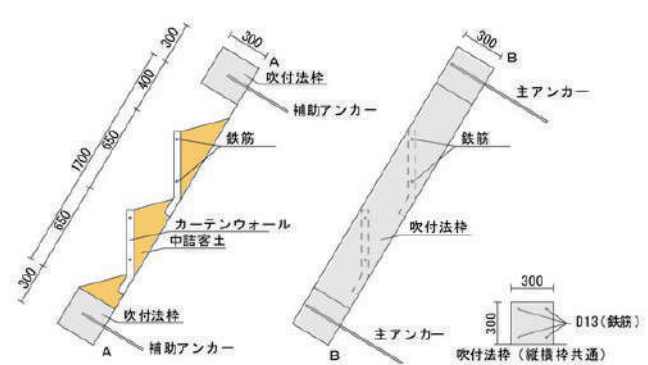
9 施工後4年目



標準図



断面図



KANSOテクノス

【株式会社KANSOテクノス】

本店 〒541-0052 大阪市中央区安土町1丁目3番5号

TEL 06-6263-7300

FAX 06-6263-7301

URL <http://www.kanso.co.jp/>



問い合わせ：土木技術部 営業グループ

TEL 06-6263-7359

FAX 06-6263-7362 担当